

加工時間を7.34秒短縮

28年度モノづくり改善道場 カナメが改善成果報告

金属屋根や太陽光発電システムを手掛けるカナメ(宇都宮市)は1月31日、県が主催する「28年度モノづくり改善道場」の改善事例報告会で、「屋根付き太陽電池パネルソーラーラーフⅢの加工時間を短縮」するための取り組み成果を県庁で報告した。現場で現状把握を行い、目標を設定し解析することで、角波穴あけ加工時間を現行の15・51秒から7・34秒短縮させ8・17秒とし、標準化を図ることに成功した。吉原正博代表取締役社長、安藤修一取締役工場長、金子敏昭製造部課長代理、室井健二同主任が出席した。

冒頭、県産業労働観光部の茂呂和巳次長兼産業政策課長は、「人口減少、国内需要の減少、グローバル化で国内産業は厳しい状況にある」とし、「県は、地域活性化のために、改善道場が企業のコスト削減と生産性向上に繋がることを期待した。」

報告者の室井主任は、加工物の流れなど「現状把握」をした上で、加工時間、期日、平均短縮時間などの目標を設定。作業方法、作業位置、配置や作業者の熟練度などを「解析」した。その結果、「対策立案」「対策実施」「効果確認」を行い「標準化と管理の定着」を図ったとした。実際の計測

値を基に分析ツールを使って課題を「見える化」共有したため、製造課のメンバー全員で解決方法を検討できたことを挙げた。また、課題を特定するために、何を測定し、どのように分析するかが困難だったとし、「今回の経験を通して、その効果の高さが実感できた。これからもチャレンジを続け、スキルを高めたい」と今後も生産性の向上に努力を惜しまないと話した。

一方、「当初、作業に慣れて作業効率のアップとしか考えていなかったが、そのため、特定の作業者に作業が偏り、安定したペースでの製造ができていなかった」と振り返り、「今後は金属屋根材など他の生産品についても分析し、作業効率化を図っていく」と意欲を見せた。

同社は主に、一般住宅外装・内装リフォーム・大型建築物の屋根施工、社寺建築、金属屋根や太陽光発電システムの開発から製造、販売、施工までを手掛けている。製品を喜多方市や大田原市の自社工場が開発、製造することで、高品質な製品サービスをスピーディー

に生み出せるという。県は、生産性向上や在庫削減など県内企業の収益力向上と競争力強化を目的に、21年度から「モノづくり改善道場」実施。28年度は、日産自動車生産企画統括本部NPW改善

善コンサルティング室から講師を招き、座学や現場での助言、指導を行った。報告会で改善報告をした企業等は次の通り。
▽青木製作所(真岡市)
▽カナメ(宇都宮市)▽環境生物化学研究所(那珂川町)▽桑名商事(真岡市)▽シオタ(那須烏山市)▽ツカサ精密(宇都宮市)▽ヤマダ(足利市)▽カクタ花農場(上三川町)



モノづくり改善道場「改善事例全体報告会」

成果を報告した(左から)室井主任、金子課長代理、吉原社長